

教育委員会議事録

令和4年10月定例会

海老名市教育委員会

教育委員会議事録
(令和4年10月定例会)

- 1 日 付 令和4年10月28日(金)
- 2 場 所 えびなこどもセンター201会議室
- 3 出席委員 教育長 伊藤 文康 教育委員 平井 照江
教育委員 酒井 道子 教育委員 濱田 望
教育委員 武井 哲也
- 4 出席職員 理事(教育担当) 小宮 洋子 教育部長 中込 明宏
教育部次長 江下 裕隆 教育部専任参事 萩原 明美
教育部参事兼教育総務課長 西海 幸弘 教育部参事兼就学支援課長兼指導主事 山田 圭
教育部参事兼学び支援課長 山田 敦司 教育支援課指導係長 土屋 葉子
教育支援課副主任兼指導主事 風間 大輔
- 5 書 記 教育総務課総務係長 小林 亮介 教育総務課主事 湊 大輝
- 6 開会時刻 午後3時30分
- 7 付議事件
日程第1 議案第29号 第3期海老名市外国語教育実施計画の策定について
- 8 閉会時刻 午後4時45分

○伊藤教育長 本日の出席委員は全員でございます。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより教育委員会 10 月定例会を開会いたします。

本日は、傍聴人はございません。

今会の署名委員については、平井委員、濱田委員にそれぞれよろしくお願いいたします。

○伊藤教育長 初めに、**教育長報告**をいたします。初めに、主な事業報告でございます。

9 月 22 日（木）は、教育委員会 9 月定例会がございました。その日に、樺ロータリークラブ大ケヤキ草刈りということで、樺ロータリークラブに年に何回か草刈をしていただいているところでございます。前にも言いましたが、大ケヤキの片側が朽ちてきていて、道路側に葉っぱが多く出てきたのですが、ツルツルに切られたみたいで、心配はなくなったということです。でも、今度は下のほうの土留めの部分を直したいという話が来ているところでございます。

25 日（日）は、海老名市総合福祉会館で、不登校の子どもたちとその保護者が来て、不登校支援団体進路情報交換会がありました。様々なブースがあって、フリースクールや県立高校の方々が来て、そこを保護者等が回って、話を聞くような催しでございました。

26 日（月）は、予算決算常任委員会文教社会分科会ということで、決算議会ですので、事務局職員が対応したところです。

28 日（水）は、最高経営会議があって、終了後に市 SDG s 推進本部会議がありました。

29 日（木）は、教育支援教室ふれあいキャンプ見送りがありました。また、全国学力・学習状況調査考察資料説明会は、指導主事が私に説明してくださったものです。

30 日（金）は、市議会第 3 回定例会本会議（閉会）で、決算等、全て承認いただいたところでございます。

1 日（土）、2 日（日）は、市中学校総合文化祭ステージ部門 1 日目、2 日目がありまして、1 日目はリコーダーと合唱、2 日目は吹奏楽があったところでございます。今回は市長が 2 日とも来ました。

2 日（日）は、市中学校総合文化祭ステージ部門 2 日目の前に、学童保育連絡協議会教育長と語る会がありました。

3 日（月）は、武井教育委員再任ということで、武井教育委員辞令交付式があったところでございます。また、ご紹介しましたが、教育委員会で人事異動がありましたので、教

育委員会辞令交付式をいたしました。それから、新潟県新発田市防災キャンプPR訪問ということで、新発田からお米を頂いて、どのくらいの頻度なのか分からないですが、そのお米で給食を出しているのですよ。そのつながりもあって、新発田市で防災キャンプをやっているの、子どもたち、いかがですかということで、誘致というか、そういう説明があったところでございます。また、令和5年度予算編成会議がありました。

4日（火）は、朝のあいさつ運動（門沢橋小学校）に行きました。10月校長会議がありました。よりよい授業づくり特別版（柏ヶ谷中学校）がありました。

5日（水）は、文化財保護審議会がありました。続いて、青少年健全育成連絡協議会がありました。

7日（金）は、えびなっ子しあわせプラン推進委員会、県央教育事務所管内教育長会議がありました。

8日（土）は、小学校運動会（有鹿・有馬・中新田・門沢橋・社家）がありました。

12日（水）は、教育支援委員会ということで、今回はえびな支援学校に行く子どもたちに関する協議をしていただいたところでございます。

13日（木）、14日（金）は、皆さんと一緒に教育委員会県外視察研修（水戸市）（つくば市）に行ったところでございます。

裏面になりまして、15日（土）は、小学校運動会（柏ヶ谷・上星・今泉・杉本）がありました。

17日（月）は、不登校支援団体連絡協議会がありました。また、外国語教育推進協議会があって、その後、いじめ問題対策連絡協議会に出席しました。

18日（火）は、学校応援団連絡会がありました。また、海西中学校合唱部訪問を行いました。これは、市制施行51周年の記念日となる11月3日に式典がありまして、そこに生徒たちが出演するというので、激励とお願いに行ったところでございます。それから、えびなの教育編集会議がございました。今回は酒井委員に寄稿いただいているところでございます。

19日（水）は、中学校体育祭（海老名・今泉・有馬）がありました。姉妹都市児童絵画交流展が市民ギャラリーで行われていまして、それを見に行きました。

続いて、20日（木）は、中学校体育祭（柏ヶ谷）、海老名図書館を使った調べる学習コンクール審査会がありました。広報えびなタイトルロゴ選考会で皆さんにも選んでいただきました。また、臨時教育委員会と教育課題研究会を行いました。

21日（金）は、小学校特別支援学級合同宿泊研修実施検討会ということで、小学校の特別支援学級の子たちが宿泊に行くので、その実施について協議したところでございます。県都市教育長協議会臨時総会があったところでございます。

22日（土）は、食育ポスターコンクール表彰式がありました。

24日（月）は、学校予算編成調整会議がございまして、学校予算ということで、学校要望を校長からいただいていますので、校長会との協議を行ったところでございます。その後、校長連絡会、臨時校長会議がありました。また、授業改善推進委員会がありました。それから、えびなっ子しあわせ懇談会ということで、次期教育大綱について、社会教育委員等にも話を聞いていて、ここでえびなっ子しあわせ懇談会の委員にも話を聞きましたので、また皆さんにもその結果を見ていただいて、総合教育会議で教育委員の皆さんの意見を聞いていくという段取りになっているところでございます。

25日（火）は、中学校体育祭（大谷）がありました。また、よりよい授業づくり学校訪問（海老名中学校）に行きました。それから、最高経営会議があつて、夕方に白石市中学生都市間交流表敬訪問がございました。

26日（水）は、中学校体育祭（海西）がありました。また、白石市中学校学校訪問（柏ヶ谷中学校）でございまして。これがとても盛り上がったのです。白石市の子は2人だけなので、2人で心細そうにしていたのですが、柏ヶ谷中学校の子たちが非常に明るく受け入れてくれて、にこにこしている姿があつて、ほっとしました。

27日（木）は、市長定例記者会見がありました。項目にはなかったのですが、最後、情報交換で相模国分寺史跡の隣接地のマンション開発が話題になりました。新聞記者としては1つの話題性があるので、それでずっとやり取りしているという状況でした。結果というか、うちのほうは一貫して文化財保護法とか、史跡地内には確実に建てられないとか、あとは建築に関わる様々な法律の中で今の時点では致し方ないということをお話しました。ただ、何らかの形で要望ができないとか、それは文化財係でもいろいろな要望はするのだとは思いますが、恐らく建物を低くするなどの措置はできないかなと思っています。新聞記者とやり取りをしていると、南側に建つ分には致し方ないのですが、この後、その周辺に波及していくのではないかと心配しているようでした。その後、文化財担当課長に地域として、国分地区としての考えは聞いているのか確認したところ、国分の自治会長も、開発を防ぐ方法はないのかなということをおっしゃっているということでした。それもまた難しい話ですが。でも、今、そういうことが議論になっているということは委員の皆さん

にもご承知おきいただければなと思いますので、よろしく申し上げます。

同じ日に、ひびきあう教育「外国語教育推進校」研究授業に行ってきました。

28日（金）は、本日ですが、小学校連合運動会、教育委員会10月定例会でございます。

それでは、主な事業報告について、皆さんからご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

○濱田委員 ちなみに、どちらの新聞記者なのですか。

○伊藤教育長 東京新聞です。この前、東京新聞に記事が出ているものを文化財担当課長に見せてもらいました。

○武井委員 記者会見より前に記事が出ていたのですか。

○伊藤教育長 はい。記者会見には、ほかに何社も来るのですが、東京新聞の方は、特にこの話題には力を入れられているようでした。

○酒井委員 17日にありました不登校支援団体連絡協議会ではどんなお話がありましたか。学校とか教育委員会にこのようにしてほしい等の要望があったのか、教えていただければお願いします。

○伊藤教育長 具体で言うと、県で不登校支援の説明会があるのですよ。それは県教育委員会でやっているものなのですが、そこに市の団体の人たちがパンフレットを置かせてくれと言っても、置かせてくれないらしいのです。登録団体でないとそこに置けないと。だから、何とかならないかということで、今話しているのは、海老名市は海老名市教育委員会として登録しているので、海老名市教育委員会で1枚パンフレットを作って、そこに海老名市の不登校支援団体を一覧等で入れて、2つ折りとかにして、困ったことがあったら、海老名市のこういうところに相談してくださいという形で教育委員会と不登校支援団体の両名で出すことにすれば、恐らく置かせてくれるので、そんな形でいけないかなという話をしていたところでございます。

○酒井委員 でも、そうやって置かせてもらえると、また、支援を受けるきっかけになるということですよ。

○伊藤教育長 はい。実際に、県が厚木市で行った説明会に海老名市の不登校の方々も行って、そういう資料を見たときに、今までもチラシを見たということでつながりができた方もいるので、そういう中で、海老名市にはどんな不登校支援団体があるかという一覧になったものがあつたら良いなと思ひまして。教育委員会が置く分には置かせてくれるので、そういう形にしようかなということです。

○濱田委員 加盟していないと置けないというのはどういうことなのか。

○伊藤教育長 私もどうしたのかなと思って、言うことは言いましたが、そういうことらしいです。

○濱田委員 関連して、先月 25 日の不登校支援団体進路情報交換会、先ほど総合福祉会館で親御さんが来られて、いろいろなブースを回られたと。どのくらいの方がこちらを訪問されたのかとかが分かれば教えてください。

○伊藤教育長 教育担当理事、ブースは概算で幾つぐらいでしたか。10 ぐらいはありましたよね。

○教育担当理事 びなる一むも含めて 10 程度だったと思います。

○伊藤教育長 海老名のフリースクールはほとんど来ていましたよね。あと、県立高校も。

○教育担当理事 県立高校も代表として来ていただいたり、定時制のこととかのお話をしたりして、参加していました。

○伊藤教育長 この事業をやっている「ぼちぼち」からは、海老名市教育委員会と共催でできないかという相談があるのですが、私の中では、そういう団体が主催するから来やすい人がいて、それが教育委員会では来にくいのではないかなという気持ちもあったりして、その辺でうまく折り合いがつけばというところがあります。要するに、広い会場でブースをもっと広げて多くの人を受け入れるには、私たちだけではできないから、教育委員会も一緒にやってもらえるとありがたい、ということをおっしゃられていました。それは今、検討しているところでございます。

○濱田委員 参考に、令和 5 年度予算編成について、予算編成会議でも話はあったかと思いますが、状況的にはどうなのでしょう。

○教育部長 財政当局としては、やはり今年についても厳しいという話は初めにされておりました。ただ、市長としては積極的な予算ということで、若者からの発想などもしっかり取り入れて、上げてくれという話はされておりました。

○伊藤教育長 もちろん立ち位置がありますから。財政当局としては、どんどん使ってくださいなんて、皆さんの税金を預かって、それを効果的に使うのが我々の仕事なので、そういう言い方は絶対しません。

○濱田委員 ただ、コロナ禍でかなり圧縮して、1 度予算をぎゅっと絞って、不用額が莫大になって、結局翌年度、使い切れないうような状態になって、繰越しもあったり、債務負担もあったりして、今、非常にバランスの悪い予算編成になってしまっているのではない

かなという心配があったので、もしここで一度きちんと整理できたら良いなと思ひまして。

○**教育部長** SDGs や自治体DX の関係がありますので、そういうこともしっかり意識した予算編成をすることというところは言われております。また、脱炭素の関係、カーボンニュートラルの関係などについても言われています。

○**濱田委員** 分かりました。

○**武井委員** 10月5日の青少年健全育成連絡協議会なのですが、担い手が減っている中で、これからの方向性みたいなものは会で問題になっていないのでしょうか。

○**伊藤教育長** 会の中では問題になっていないですね。地区ごとの課題という部分もあると思うので。例えば海老名中学校区は伝統的にオアシスポスターをやっているところなんかもあって、それぞれがすごく前向きに取り組んでいるところもあって、例えば、柏ヶ谷中学校区はクリスマスのときにいろいろイベントをやったりもしていました。今はコロナ禍でできていないですが、それぞれ特色を持ったやり方では進められているなと思います。

○**武井委員** そういうところは、役員とかがシステムのできているのでしょうか。

○**伊藤教育長** そうですね。

○**武井委員** 分かりました。ありがとうございます。

○**平井委員** 2日に学童保育連絡協議会教育長と語る会があったのですが、今、学童としてどんな課題が挙がっているのでしょうか。

○**学び支援課長** 会議の前半は意見交換をしまして、後半は令和5年度に向けた要望という形で開催されました。要望では、学童保育の運営には事務が多くて、なかなか保育に専念することができないことから、そういうバックアップができる事務員を雇えるような補助金などを国で出しております。そういうものの予算化などをしていただきたいという要望をいただいています。前半の意見交換は、学校との連携や常日頃、学童運営の中でいろいろ感じていることを、グループごとにお話をさせていただいたというような形でございます。

○**伊藤教育長** ただ、私が一番問題視しているのは、海老名市学童保育連絡協議会に入っている団体が、とても少なくなってしまったのですよ。学童保育は全体で50を超える団体があるのですが、海老名市学童保育連絡協議会に入っている団体は半分以下なのです。

○**学び支援課長** 法人としては半分、支援単位としては44%の加盟率です。

○**濱田委員** 大手の団体が入っているということは。

○伊藤教育長 いや、そうではなくて、いろいろ団体があるのですが、補助金も充実してきて、海老名市学童保育連絡協議会に入らなくても金銭面ではある程度補助、支援をしてもらえるから、だんだん抜けていくような状況があるのです。だから、私が海老名市学童保育連絡協議会を対象に教育長と語る会を催しても、加入している団体の人たちだけしか対象にならないから、本当にみんなが集まる場所でやり取りしたいと私は言っているのです。要するにいろいろな事業者がいる中で、その方々といろいろな意見を言えるような場で。

○濱田委員 入ってこないのかな。

○学び支援課長 新規の方については、私どもも積極的に海老名市学童保育連絡協議会に加盟してもらって、横のつながりをということをお願いしているのですが、活動していく上で方向性が違うとか、いろいろご意見があって、脱退されていくような形になってしまっているのが現状です。

○伊藤教育長 団体設立当初で全然補助金がない頃は、みんなで集まって来たのですが、そこから運営がうまくいき出したら抜ける団体もいらっしゃいます。

○酒井委員 役割を果たしたという考えなのですね。

○伊藤教育長 そういうことがあるではないですか。でも、こちら側の立場からすると、全ての意見を聞いて物事を判断したいと思っていますので、その辺は今、違った意味で課題になっているなど私は思っているところでございます。

ほかにはどうでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 続きまして、「子どもたちが求めるもの」でございまして。よく初任者研修などで言うのですが、担任の先生がいて、子どもたちが目の前にいる。その時に子どもたちはあなたたちに何を求めていると思いますか、といつも初任者に聞くのです。子どもは、例えば一緒に遊んでほしいとか、一緒に時間を過ごしてほしいとか、そういうことを思っていて、そういうやり取りをする必要があるかなと思っています。9月から運動会や体育祭、文化祭と、いろいろ見たのですが、私、子どもたちも応援しているのですが、大体教員を見ているのですよ。先生たちがどんな動きをしているか、見ているのです。そのときに私が一番うれしく感じるのは、子どもと先生が関わっている場面が見られることなのです。子どもたちの活動は活動としてすごいのですが、学校の先生たちが関わるような姿、一緒になって喜んでいたりとか、一緒になって涙するとか、そういう一緒になっている姿に感動するのです。そして、子どもも多分それを望んでいるのだろうなど私自身は思ってい

ます。授業の中でもあるのですが、学校ICTが進んで、1人1台端末で子どもが作業していて、先生は最初にこれをやってと指示して、できましたか、では、できた人からフォルダに入れてとか指示をするだけなのです。これは授業なのか、授業なのだろうなど。それはそれであるべきことかもしれないけれど、反動とは言わないですが、子どもたちに主体性を求めるということかなど。でも、先生が子どもからちょっと手を引いて、子どもたちだけでやることのすごさなんかを見せるというのは、そこまで重要というわけでもないと思っているのです。

子どもの主体性は、実を言うと、要するに目の前のお手本だから、学校の先生の主体性なので、学校の先生がいろいろ一緒になってやるのが、結果的に手を引いても、先生はあのおときこう言っていたよな、先生はこうやってやろうとしていたということで、自分たちでやる。最初から何もないところで、自分たちでやるということではなくて。そういう中で、授業を見て面白かったのは、昨日見に行った小学校の外国語の授業です。ALTと先生、子どもとの関わり、やり取りが面白くて、こういうやり取りの中で物事が進んでいくようなことを子どもたちは求めているのだと思いました。だから、このままいったら、何がいいのか、勘違いしないかなど心配を少ししています。「教育は、ある意味、大人から子どもへのよりよき価値の伝達です。教員には、先に生まれたものとして、自分の中にある、美しいもの、正しいことを伝える役目があり、子どもたちはそれを求めていると、私は思っているのです」とまとめてあるのですが、よく先に生まれたと書いて先生と呼びますが、私自身の理解は、先生は先に生まれたというだけなのです。では、先に生まれた価値は何かといったら、先に生まれて、自分が経験したことについて、これが人として正しいだろうとか、良い景色だったぞと。そういうことを子どもたちに伝えるのが教育の根本かなと思うのです。

これは前にも言いましたが、有馬中学校長をしていたときの3年生がとても荒れていて、そうしたら3年1組の担任がダダダッと階段を下りてきて、校長室をガラッと開けて、「校長先生、俺は一体何をすればいいのですか」と言って、飛び込んできたのです。それで私が言ったのは、「おまえな、自分で子どもたちに一番正しいと思うことをちゃんと話せばいいじゃないか、おまえの判断をちゃんと聞いてもらえばいいじゃないか」と言ったら、「分かりました」と言って、また階段を上がっていったのですよ。そのときはとっさに答えたので、何がその教室の場面で生まれていたか私は分からないのですが、教員ってそれが価値になり、子どもたちは実はそれを求めているのではないかなど。せっかく一期

一会で会った先生ですから。だから、うまい授業とか、要するに間違っただけの主体性だと思われる授業などは何も求めていなくて。

中学校の体育祭へ行って見ているのは、クラス種目というのがあるのですよ。先生のタイプもいろいろあって、内気な先生もいます。でも、大体は自分のクラスで大縄の後ろについていたり、自分のクラスの競技の中で一緒に頑張っているのですよ。やはり子どもたちは先生と一緒に喜びたいのですよね、1位になったりすると。そのときに一緒に喜んでいる姿とかを見ると、私は、ああ、良かったなと思うのです。これからの教育、様々な授業手法とかで進むのですが、その辺だけは忘れずに大事にしたいなということが押しなべて書いてあるところがございます。

○平井委員 神奈川新聞が、9月に神奈川フィルハーモニー管弦楽団が上星小学校に行ったことについて、上星小学校の写真入りで記事として取り上げてくれていたのですね。その中で、今は歌が歌えないと。この企画をやってきた中で、今までは子どもと一緒に歌ったりしてきたようですが、今回は歌が歌えないということで、特別に編曲して校歌を演奏したら、子どもたちが涙を流して喜んでくれたと記事に書いてくれていたのです。そういうことは昨今なかったもので、そういう状況を神奈川新聞が取り上げて、今後また、活動を続けていきたいと。そういう感動って良いなと思って、今日子どもたちに声をかけたら、すごい輝いた目で、「うん、来た来た、来たよ」と、みんなに声をかけて、話をしに来てくれました。ある部分では、こういう機会を与えていかないと、子どもたちの感動とか、そういうものも生まれてこないし、ぜひそういう生のものを与えてほしいなと、今回その記事を見てつくづく思いました。子どもたちの今日の感想からも、海老名でもそういう機会をたくさんつくってもらえたら良いなと思いました。

○伊藤教育長 それでは、教育長報告はこれで終わりにさせていただきます。

○伊藤教育長 それでは、審議事項に入ります。今日は1件でございます。

日程第1、議案第29号、第3期海老名市外国語教育実施計画の策定についてを議題といたします。

説明をお願いいたします。

○教育部長 資料1ページをご覧くださいと思います。議案第29号、第3期海老名市外国語教育実施計画の策定についてでございます。こちらにつきましては、小中学校外国語教育の充実、強化を図り、小中学校の文化に根差した外国語教育を推進することを目

的といたしまして、第3期海老名市外国語教育実施計画を策定したいことから、議決を求めるものでございます。

資料2ページをご覧ください。1、趣旨につきましてはただいま申し上げましたとおりでございます。

2、計画期間でございます。こちらは令和5年度から令和7年度までの3年間でございます。

3、計画の検討・協議でございますが、「海老名市外国語教育推進協議会」におきまして、海老名市の外国語教育の現状や児童生徒及び教員の意識調査等を基に、これからの外国語教育の在り方を検討・協議してまいりました。

なお、検討・協議内容の詳細につきましては別紙のとおりでございます。資料3ページに記載してございますので、そちらをご覧くださいと思います。

まず、第3期海老名市外国語教育実施計画策定に向けてという表題でございますが、その下の1、第2期海老名市外国語教育実施計画の取組についてをご紹介したいと思います。こちらは、第3期に向けて検討・協議を行ってきた内容を記載してございます。

(1)といたしましてALT配置についてでございます。「第2期実施計画策定時から、専科担当教員が増員された。専科がいる学校かそうでないかによって、ALTの活用の仕方が違う。」「専科はALTがいなくても成り立つかもしれないが、自信のない教員や専科はALTに相談できて助かっている」など、7点記載してございます。

(2)外国語教育の目標についてでございます。こちらは『英語でわがまちを語り…』が気になる。『外国語で自分のことを語り…』のほうがふさわしい。英語はあくまでもツールの1つと考えたい」というご指摘や、「異文化理解、多文化共生の考えが背景にあることを共有したい」というご意見をいただいております。

(3)具体的な手立てについてでございます。「中学校と小学校との連携を充実させたい。」「児童生徒の学習成果を発揮する場を確保したい。例えば、外国の児童生徒との交流の場等。」というご意見でございます。こちらのご意見を踏まえまして、第3期の計画策定に向けて取り組んでまいりました。

続きまして、2、第3期海老名市外国語教育実施計画の概要でございます。こちらでは、第3期の主な新規事業予定として5点ほど挙げさせていただいております。まず、ICT機器を活用した教職員授業準備支援、海外の学校とのオンライン交流、「スピーチコンテスト」への参加、中学校外国語教員による研究実践、最後は、神奈川大学と連携した小

学校外国語教育の充実に向けた中核教員養成事業の5点を主な新規事業といたしまして、第3期海老名市外国語教育実施計画に記載をしているものでございます。

資料はお戻りいただきまして、2ページをご覧くださいと思います。4、資料でございますが、別冊「第3期海老名市外国語教育実施計画（案）」を皆様のお手元に配付してございます。こちらをご覧くださいと思います。詳細につきましては教育支援課副主幹からご説明申し上げます。

○教育支援課副主幹 ご説明いたします。それでは、冊子1ページをご覧ください。(2)でございます。策定に向けた組織ということで、今、教育部長からもご説明ありましたが、第3期海老名市外国語実施計画を策定するに当たり「海老名市外国語教育推進協議会」を発足しまして、今後の海老名市の外国語教育の在り方を検討・協議してまいりました。構成メンバーはご覧のとおりでございます。

続いて、2ページから6ページにおいては、これまでの海老名市外国語教育についての遍歴をまとめたものでございます。ここ3年間についてご説明いたしますと、小中学校において新学習指導要領の全面実施があったこと、令和元年度には全国学力・学習状況調査において英語科の実施があったことが主なところでございます。

続きまして、7ページをご覧ください。7ページからは海老名市外国語教育の現状についてということで、今年の6月に、市内の小学校教員、中学校の外国語科の教員、小学生、中学生に「外国語教育アンケート」を実施し、その結果をまとめたものでございます。順にご紹介いたします。

9ページをご覧ください。9ページの下の方にまとめがございます。まず、小学校教員アンケートからみえてきたことをご紹介します。丸の1つ目です。外国語を話すことが苦手意識のある教員が多く、その指導に難しさや抵抗感を感じている教員が多い。2つ目、そんな状況でも、指導技術を向上させるため、必要な研修を受講しようとする教員が増えている。4つ目、授業内でのALTの望ましい活用場面や活用方法について、教員の理解が進んできているといったようなことがアンケートから分かってきたところでございます。

続いて、11ページをご覧ください。11ページは中学校教員アンケートからみえてきたことをまとめております。丸の1つ目です。中学校英語科教員は、生徒のコミュニケーション力の向上に直結するような学習活動、スピーチやプレゼンテーション、気持ちや考えを英語で話す活動、そういった学習活動を進んで取り入れるようになってきているという

ことです。2つ目としては、中学校英語科教員は、小学校で学んできた外国語教育を考慮し、指導に当たるようになってきていることもアンケートから分かるようになりました。

続いて、13 ページをご覧ください。13 ページは小学校児童アンケートからみえてきたことをご紹介します。1つ目は、外国語の学習や英語を使えることは大切だと考えている児童や外国語が使えるようになりたい児童が多く、外国語教育への意欲が高いことが分かりました。また、2つ目として、英語を「聞くこと」や「話すこと」、「コミュニケーションの楽しさ」を感じている児童が多く、外国語活動・外国語の授業に楽しんで取り組んでいることがアンケートから分かっております。

続いて、15 ページをご覧ください。15 ページは中学校生徒アンケートからみえてきたことをご紹介します。1つ目として、中学校生徒は、外国語教育への意欲が高く、「話す・聞く」「読む」「書く」の各領域について、より技能を向上させたいという気持ちが強いことが分かります。しかし、将来の仕事、海外での勉強、文化交流等、身につけた英語力を具体的な場面で生かそうとする意欲に十分に結びついていないような課題も見られました。

次の16 ページから18 ページ目までにわたってはALTの活用についての項目についてです。結果としては18 ページにまとめてございます。「ALT活用の現状について」からみえてきたこととしては、ALTとの関わりにより、「児童生徒の技能の習得」「児童生徒のコミュニケーションへの意欲向上」「児童生徒の異文化への慣れ親しみ」「授業の充実」に90%以上の教員が効果的であると回答しており、ALT配置の効果が表れているところです。また、2つ目の丸にもあるように、前回調査よりも肯定的な回答の割合が増加しているところでございます。

こういった現状を踏まえまして、海老名市外国語教育推進協議会委員に、第3期海老名市外国語教育についてのグランドデザインやそれに伴う具体的な取組についてご協議いただき、まとめたところでございます。19 ページのグランドデザインをご覧ください。上部のほうに【海老名市外国語教育がめざす児童生徒の将来の姿】を四角で囲ってございます。「外国語で語り合い、世界の人々とのコミュニケーションを楽しむことができる『えびなっ子』」としました。ポイントは語り合いの「合い」でございます。これまでは「語り」という表記で、どちらかという、一方的な形のニュアンスが強かったところがございますが、よりコミュニケーションを充実させたいところから「聞く」にも力を入れていきたいということで、この語り合いの「合い」が入ったところが大きな変更点でございます。

続いて、具体的な取組について、新規事業を中心に説明いたします。21 ページをご覧ください。真ん中より下の部分、**2**の研究実践についてです。①海老名市外国語教育推進校、③中学校外国語教員による研究実践に取り組んでまいりたいと思っています。毎年、1 中学校区を推進校区に指定しまして、外国語教育、授業の研究、授業の公開を依頼させていただこうと思っております。その中には、③にもあるような中学校外国語教員による授業公開・協議会を通して、市としての外国語教育の研究を進めてまいりたいと思っております。

続いて、23 ページをご覧ください。23 ページ、**4**の教員研修会・担当者会の、② I C T機器を活用した教職員の授業準備支援でございます。配備された1人1台端末等を活用しまして、授業実践動画や教材、教具の紹介を用いたコンテンツを活用した教職員の授業準備支援をA L T派遣委託業者と連携して行っていきたいと思っております。

続いて、その下になりますが、③神奈川大学と連携した小学校外国語教育の充実に向けた中核教員養成事業でございます。これは県の事業ではあるのですが、小学校教員外国語教育に係る専門的な知識を身に付けるとともに、中学校教諭二種免許状外国語（英語）を取得し、市内において指導的な役割を果たす外国語教育の中核となる人材の育成を図るものでございます。

おめくりいただいて、24 ページに移ります。**6**、外国語でのコミュニケーション・体験活動の充実についてです。主なところでいきますと、②海外の中学校とのオンライン交流です。中学校の生徒が、オンラインでつないだ海外の学校の生徒と外国語で語り合い、交流することで、コミュニケーションの楽しさを体験する場を設ける予定です。実施方法については、これもA L T派遣委託業者と連携して行ってまいりたいと思っております。

また、③「スピーチコンテスト」への参加です。小学校高学年を中心に実施する予定です。自分の伝えたいことを英語で発表することで、コミュニケーションの楽しさを体験する場を設けていきたいと考えています。

以上、この計画に沿って外国語教育を推進してまいりたいと考えております。

○伊藤教育長 それでは、第3期海老名市外国語教育実施計画（案）ということで、教育委員会として皆さんにご決定いただきたいということで、ただいま説明がありました。ご質問等ありましたらよろしく申し上げます。

○濱田委員 外国語でのコミュニケーション・体験活動の充実は非常に重要なと思うのですが、ほとんどしゃべれなくても、海外に行っていると、若い頃は自然にある程度でき

てしまうようなところもあつたりしましたので、コミュニケーションは非常に重要なのかなと思います。English day と書いてありますよね。一日中英語に親しむ。これをもう少し具体的に、こんなイメージで行いますというようなことを教えていただけたらと思うのですが。

○教育支援課副主幹 English day についてご説明いたします。English day は小学校で実施している行事でございます。1つの小学校に市内に配置しているALTを全て配置して、一日中英語に親しむ日をつくってございます。英語で会話する機会を増やすことで、コミュニケーションへの興味や関心を高めるというのが目的でございます。具体的に申し上げますと、イメージとしては、小学校は1時間目から6時間目まで設定している学校が多いと思うのですが、例えば1時間目に1年生、2時間目に2年生、6時間目に6年生という形で割り振らせていただいて、該当する学年は体育館に集まり、体育館にALTが十数人並んでいまして、そのALTさんを通して英語を使ってコミュニケーションを取るといような活動でございます。

○濱田委員 すばらしい。期待してしまいますね。今もやっていらっしゃるのですか。

○伊藤教育長 やっています。

○濱田委員 年1回だけなのですか。回数を増やすと金額が上がってしまうとかもあるのでしょうか。

○教育支援課副主幹 ALTの派遣会社との契約の中に入っておりますので、追加が発生することはございません。

○濱田委員 オプションではないのですね

○教育担当理事 その日はそれぞれ配置される学校に行かずに、別の学校に集結するという形なので、勤務の中でやっていただいているという形になります。

○伊藤教育長 割り振りがあがる。

○教育担当理事 例えば年に2回ずつやることも可能なのですが、もともとの授業をやっている学校に行く日数がその分減るとい形になります。

○武井委員 なるほど。そこで調整するわけですね。

○伊藤教育長 でも、子どもはやり取りするのですよ。英語でやり取りなんて、分かっているのかなと思っているのですが、小さい子もちゃんと理解してる。そういう中だと積極的に取り組むのです。

○濱田委員 もし小学校低学年から始めていくわけですから、たとえ1日だとしても、積

み重ねていくことが非常に良いことかなと思いました。だから、楽しみです。ありがとうございます。

○武井委員 15 ページの中学生のまとめで、真ん中の丸の「将来の仕事、海外での勉強、文化交流等、身に付けた英語力を具体的な場面で生かそうとする意欲に十分結びついていない」というところが気になったのですが、これはコミュニケーション能力とかより、受験に向けた勉強というふうに捉えられているのかなと感じたのですが、そのところはいかがでしょうか。

○教育支援課副主幹 15 ページの考察③の部分です。「外国語教育の成果を発揮する場として、将来の仕事、海外での勉強、文化交流等の意欲に十分結びついていない」とのご指摘をいただきました。これは、結果⑨、⑩の辺りから考察した文章になるのですが、実際にこの冊子を策定するに当たり、中学校の外国語科の先生にも携わっていただきました。そこで生徒の様子を伺いますと、やはり、中学校になってくると、先に高校受験が目標としてあって、英語も受験科目の1つになってしまっていて、実際に英語を使ったコミュニケーションからだんだんと意識が離れていってしまっているというご意見をいただきました。そのため、中学校にも小学校の Englishday のような学習内容をコミュニケーションで生かす場をとということで、オンライン交流というものを取り入れていこうといったご意見をいただいて策定したところでございます。

○武井委員 分かりました。恐らくそこから、将来の夢のところで、人々とのコミュニケーションを楽しむというところにつながるのかなと思ったので。ありがとうございます。

○伊藤教育長 学習の内容で、中学校では直近の自分のクリアしなければいけない課題が高校受験だから、そこに行きますが、習っている内容は将来的に自分がいろいろな活動をするために蓄える力とする、とはなっているのですが、直近はそうもいかないから。

○武井委員 受験があると楽しめない。

○伊藤教育長 でも、受験は絶対あるから、そこは子どもとしても悩ましいのではないかな。

○武井委員 もしかして、楽しくできたら、もっと成績もよくなるかもしれませんね。

○伊藤教育長 そう思います。

○濱田委員 その通りですね。

○酒井委員 計画自体は、これまで行ってきたものをさらに強化してということで、こういう計画を立てていただいてありがとうございます。今、実際行われている授業で、C E

FR3級程度が中学校卒業時の目標になっていたと思うのですが、それは現状のままだとなかなか難しいのですか。自分の子どものクラスのことしか私は分かりませんが、今日はスピーキングのテストがあるからといって練習するときに、噛んでしまうと減点されてしまうから駄目だとか言うのですよ。あと、少し言い間違えたり、言いよんだりすると減点されて、良い評価がもらえないから、いかに間違えないかがとても大事だというようなことを言っているときがあつて、そうすると、英語でのコミュニケーションを楽しむという目的から外れてきてしまうので、この中になかったので思ったのですが、先生が評価をするときに、コミュニケーションを図ろうとしているところをもう少し酌んでいただけると、子どもも英語でコミュニケーションをすることにもっと集中できるのかなと思うのです。それを少し英語科の先生方に投げかけていただければなと思いました。考えながら話していたら、言いよんだりすることもよくあると思うのですよね。

○伊藤教育長 外国の方々だってそうですよね。普通にぺらぺら全部をスムーズに言ったりはしないよね、人って。

○酒井委員 ゆっくりはっきり、しっかり発音したほうが良いというふうにアドバイスすると、お母さん、そんなにゆっくり話しているとタイムアウトしてしまうのだと言われるのですよ。

○伊藤教育長 スピーキングのテストがそういう評価基準なのか。

○酒井委員 それは、先生によってなのか、たまたまそういう先生に指導されているのかは分からないのですが、それ以外で言うと、そういう評価基準は置いておいて、スピーキングでいろいろプレゼンテーションしたりとか、いろいろ話したりとかという授業はすごく多くて、実際、コミュニケーションの機会は作られているなと思います。教科書も厚くなって、内容もすごく難しくなっているから、英語が苦手だなと思ってしまっている子に対してはどういうアプローチで補助していくのかというのは、何かこの計画の中にありますか。外国の学校とオンラインでつなぐとかというのも、上手な子はできると思うのですが、できない子は積極的にはなかなか取り組めないから、やるのでしたら、なかなか上手にできないよという子も、スクリプトを一緒に準備してあげたりとか、台本がある程度決まっていれば良いと思うのですよ。何もなくて話せと言われると、やはり大人でも難しいから、もう選択肢A、B、Cとかで、この中から選んで話しても良いよとかと言ってやってみて、まずは、あつ、通じるんだ、というのを体験してもらえそうな感じでプログラムを組んでいただけると、みんなが楽しめるかなと思います。お願いします。

○**教育担当理事** 実際に小学校でも、先ほどの English day で1時間目から6時間までずっと見ていると、1、2年生は英語が全く分からないはずなのにすごく楽しそうに、平気でやり取りするのです。もしかすると、日本語で大人と話しているのと感覚的には変わらないのかもしれませんが。

○**伊藤教育長** そうそう、同じですよ。

○**教育担当理事** 全く気にせず、みんな楽しそうなのですが、学年が上がって、5、6年生なんかはALTのところに行って自分を紹介して、相手にも質問をしてということをやっているのですが、顔が暗くなってしまう子もいるし、できるだけ言いたくないといった苦手意識がある子の差が出てきているなどはすごく感じています。

ただ、小学校は文部科学省が言っている学習の目標自体がとにかくコミュニケーション力なのだ。英語の力ではなくて、コミュニケーションする力というものすごく言っているんで、楽しくやるのがまず先にある。分からなくても、手振り、身振りでもいいからやってみようという意識が教員にも浸透しているのですが、中学校は、何十年も授業をやっている中で文法重視みたいところがまだ抜け切れていません。大分変わってきてはいるのですが。そう考えると、ここには手だてとしてはいいのですが、小中連携ということにすごく力を入れておまして、今年度は1つ1つの中学校区にとにかく小中学校のつながりを軸にした研究委託をしておまして、そこだけでは6年間かかることになってしまうのですが、そこから発信して、やっぱり授業力といえば授業力。ある意味、少し苦手そうな子にどういう手だてをするかというのは、英語に限らず、全てに関わることだとは思っているので、そういう意味では、本当に授業力とか、課題の設定の仕方とか、もっと大きな目標。中学校もイメージをもっとコミュニケーションに持っていくというか、楽しくというところが大前提とか、そういうところなのかなというふうには思っております。

○**教育支援課副主幹** 酒井委員がおっしゃったように、先ほど小学校の English day においても、いきなりの本番ではなく、ALTと English day でどんなことを話したいかとか、どんなことを伝えたいかということ事前に学級担任の先生が、その学校にいる英語専科担当教員の方と打合せ、練習するといった時間を設けているのです。私も、English day を拝見しますと、原稿なしで、その場の雰囲気ですごく話してしまうお子さんもいれば、原稿を読みながら話す中でもコミュニケーションを取っているお子さんもいらっしゃって、それは、やはり準備の段階で児童の実態を把握されている先生方が適切な支援をしていきながら本番を迎えて、どの子も、伝わった、楽しかったという思いが持てるように先生方

に支援していただいているところなのです。

こういった小学校の取組みを、今、教育担当理事が申し上げたように中学校に波及していくよう小中連携として実施していこうということで取り組んでいますので、酒井委員がおっしゃったように、そういった苦手なお子さんにも丁寧な支援をといるところは、引き続き増やしていきたいなと思っているところです。

○酒井委員 お願いします。

○平井委員 3期に向けて、きちんと整理されて、大変良いかと思います。そして、海外とのオンラインとか、スピーチコンテストとか、新しいものを取り入れてくださって、また一歩進んだかなと思います。

今、話を聞いていて、特に English day の開催も含めて、A L Tによる指導の幅を広げることにはできないかどうか。委託ということで、契約内容が幾つか決まっていると思うのですが、ある程度こちらの要望も聞いていただけると良いのですが。今の話を聞いていて、やはり子どもたちは直接話をする機会をととても望んでいて、楽しんでいるということなので、今までと同じではなくて、A L Tと子どもたちがいかに関係を持って、A L Tをもうこれだけやっている中では、いかに海老名として活用していくか。ただ来てもらって、授業の中に入れてもらってというだけではなくて、もっとほかに関わる方法がないのだろうか、実際にほかの地域でやっていることがないのだろうか。そういうところを進めてほしいなと思います。もう何年来もやっているし、海老名の状況もある程度理解してくださっていると思うのです。ですから、向こうからも、こういうことなら要望してもらえばできるよというものが何かあれば、そういうものもいただきながら、3期の改革なので、できればここで一歩進んだものにしていただけたらありがたいなと思います。

○教育支援課副主幹 現在もA L Tには頑張ってもらっているのですが、中には、授業の場面だけではなくて、給食を一緒に食べたり、休み時間に一緒に遊んだり。先日は、たまたま English day を行った学校の昼休みにA L Tが自分の出身国の伝統的な遊びを体育館で児童に紹介するような活動に取り組んでいるA L Tもいらっしゃるのです。おっしゃったように、派遣会社とは密に連絡を取らせていただいていますので、有益な情報があればいただけますし、こちらからの要望もできる範囲で聞いていただけます。また、計画に書いていないからやらないというわけではなく、今後も可能性があるものを随時取り入れてまいりたいと思っております。

○平井委員 ぜひそれはやっていただきたいと思います。子どもたちが、今までと少し変

わったねとか、もっと楽しいねという思いが抱けるようなものにしていただければありがたいなと思います。

○伊藤教育長 見ていて、海老名市で派遣されている委託業者がどうだということではなくて、海老名市に外国人英語講師として派遣される方々は、海老名で何年もやっているのですよ。その人たちはすごく海老名のことを分かってくさっているのです、すごく助かっているなと思っています。やはり人というのが大きいので。

私、昨日も英語の授業を見に行き、エリザベスさんがやり取りして、本当によく頑張っていたのですが、面白いなと思ったのが、子どもたちみんなで活動していて、1対1でゲームみたいなことをしているのですが、例えばちょっとはぐれた子が出てくるのではないですか。そうしたらエリザベスさんはすぐその子のところへ行くのです。そういうことに気がつくというか、そういうレベルの人たちが海老名には人材として大分入っているのですごく助かるし、平井委員がおっしゃるように、そのことを活用しながら業者ともやり取りしながら、様々なことでさらにALTが活用できるような形というものは、これから研究して、実践していくことが必要かなと思っています。

○酒井委員 いろいろ方策を書いていたのですが、保護者の方にもこのように関わってもらえればというのがあると良いなと思いました。大人の世代は英語が苦手だったなという意識のある方が多いと思うのですよ。私もすごく英語が苦手だったので、子どもにどうやって英語を勉強したらいいとか、アドバイスするのはすごく難しいと思いました。そこで、こういう勉強をすると良いですよとか、親がスクリプトを読む相手の役をやると良いですよとか、教科書のここにQRコードがついているから、ここを一緒に聞いてみてくださいとか、何回も繰り返してやるのがとても効果的ですとか、そういうのを教えてもらえると実践したりできる親もいると思うのです。

では、英語を習いに行かないといけないのかなという考えになる保護者の方もどうしても多いと思うのです。そうすると、英語を外部に習いに行くというと月謝が高いところも多いので、お金はかけなくても、このように勉強すると誰でもしっかりと身に付けることができるのですよ、海老名市としてもALTをこれだけ配置して、予算もかけて取り組んでいるから、それに一生懸命取り組んでもらえれば、中学校卒業のときには文部科学省の目標としている英検3級のレベルもできるし、コミュニケーションを取ろうという意欲も生まれるカリキュラムを組んでいるから、保護者の方もこのような取組みに協力してください、ということを定期的に発信していただければ、みんなが楽しんで英語を勉強

できる環境になるのではないかなと思います。よろしくをお願いします。

○平井委員 それに関連して、この日はEnglish dayだということを学校だよりに載せてくださると良いなと思います。その日をオープンにして学校に来ていただいて、子どもたちはこのような形で英語を勉強している、ALTと関わっていると。まずそんなところから見ていただくというのもすごく大きいかかと。そういう機会をつくれればある程度保護者の目も開けるだろうし、興味関心がある人は来てくださるだろうし、そういう形で一歩広げること、必要なのかなと思います。

○教育部長 今回、予算につきましては、9月の補正で3か年、令和4年度からになりますが、準備期間を含めて、5年度、6年度、7年度と4年間の債務負担とさせていただきます。それは5年4月から新規にスタートできるように今、準備をしているということなのですが、公募型のプロポーザルでやります。これから告示をさせていただいて、現業者も恐らく入ってこられるとは思いますが、その他の業者が入ってこられる可能性もあると。その中で審査会を開いて最終的に決定していくということでございますので、ある程度私どもで公募、募集の要領をつくって出していきますが、今いただいたご意見なんかは表現としてもし入れられるようなら入れさせさせていただいて、あとは業者がどういう提案をしてくるのかというところを審査できれば良いのかなと考えています。

○伊藤教育長 活用についてはいろいろプロポーザルで。うちはこのようなことを目標にしているとか、このような出している条件に対して業者が様々提案してきて、それを審査しますので、そういう中で1つの項目として入れれば、また違ってくるかなとは思っています。

でも、あとは、海老名市としてこのように外国語教育を進めますというものを保護者に周知する。そういう中で、各授業の中で先生たちがご家庭でこういうことに取り組むことができますということは、海老名市教育委員会というよりも、各学校からしっかりと発信していくような形にするのが一番自然かなと思います。でも、最低限、海老名市はここに力を入れて、今後このような改革を進めますということを、要するそれだけのお金をかけてやっていることなので、このように進めていますということを皆さんに周知して、理解していただくことはとても大事な事かなと思います。その辺は、良いパンフレットやリーフレットがもし作れたら作って、保護者に説明できるような形にしてほしいと思いますので、それはお約束します。

ほかにはいかがでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ほかにご質問、ご意見等ないようですので、議案第 29 号を採決いたします。第 3 期海老名市外国語教育実施計画として、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって、日程第 1、議案第 29 号を原案のとおり可決いたします。

○伊藤教育長 以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、教育委員会 10 月定例会を閉会いたします。